

4. 認知症患者の大腿骨頸部骨折に対する人工骨頭置換術についての検討

対比地加奈子, 永井 彩子, 角田 大介
反町 泰紀, 中島 飛志, 内田 徹,
浅見 和義 (前橋赤十字病院 整形外科)

人工骨頭置換術を施行した 65 歳以上の大腿骨頸部骨折症例について, 認知症のある群とない群にわけて比較検討した. 対象 104 例中認知症群 37 例 (男性 11 例, 女性 26 例), 非認知症群 67 例 (男性 18 例, 女性 49 例) で, 手術時年齢平均は認知症群 82 歳, 非認知症群 79 歳, 手術待機期間は両群とも平均 4 日, 受傷前歩行能力についても両群で差はなかった. 術後 2 週での歩行能力を評価し, 介助なしで歩行可能となったのは, 認知症群で 43% (16/37 例), 非認知症群で 67% (45/34 例) であった. 80 歳以上の症例では, 認知症群 33% (8/24 例), 非認知症群 53% (18/34 例) となった. 転院・退院までの当院入院期間の平均は, 認知症群 31 日, 非認知症群 27 日であった. 術後脱臼は非認知症群で 1 例 (他科転科後に転倒), 術後感染はいずれの群でも認めなかった. 歩行能力回復には, 諸家の報告と同様, 認知症が影響していると考えられた. 認知症群で従命可能だったのは 23 例であったが, 歩行練習は 35 例で可能だった. また, 脱臼予防には股関節外転枕を装着し, 認知症群には適宜体幹抑制を必要とした. 今回は術後急性期のみの観察であり, さらなる検討が必要と思われた.

〈研究会講演〉

座長: 高岸 憲二 (群馬大院・医・整形外科)

『骨粗鬆症の診断と治療』—2011年度の改訂—

篠崎 哲也 (群馬大院・医・整形外科)

〈主題Ⅱ〉脊椎手術の合併症

座長: 飯塚 伯 (群馬大院・医・整形外科)

5. 富岡総合病院における脊椎手術合併症の検討

金澤紗恵子, 松原 圭介, 原 和比古
柘植 和郎, 小林 敏彦, 小野 庫人
土田ひとみ, 塩澤 裕行
(公立富岡総合病院 整形外科)

2003 年から 2011 年の間, 当科で行った脊椎手術 (合計 1310 件) で発生した手術合併症に関して, 1) 術後感染 2) 血腫 3) 硬膜破損 4) その他 に分類し, その発生頻度, 内容, 対処法等につき検討した. また術後感染に関しては, 感染予防対策を脊椎患者全体で統一した 2008 年

以降と, それ以前の二期に分け, これを比較検討した. 若干の考察を加え, 検討する.

6. 頸椎砂時計腫摘出術後に左上下肢運動麻痺を生じた 1 症例

高澤 英嗣, 斯波 俊祐, 片山 雅義
鈴木 涼子, 足立 智
(桐生厚生総合病院 整形外科)

脊椎手術の合併症として, 神経系合併症は非常に重要である. その予防・回避のためには, 愛護的な術中操作に加え, 合併症発症直後の迅速な原因究明と注意深い経過観察が求められる.

今回, 術直後より運動麻痺を生じた症例を経験したため文献的考察を加え報告する. 【症例と経過】 73 歳女性, 左手掌～手指および両下肢の運動障害・しびれを主訴に当科受診し, 頸椎砂時計腫 (Eden type II) と診断され, 腫瘍摘出術を施行した. 術直後より左上下肢麻痺が増悪したため緊急 MRI を施行し, 脊髄浮腫と髄内輝度変化を認めたが, 血腫による明らかな硬膜管・脊髄圧迫所見はなかった. メチルプレドニゾロンの点滴投与を行い, 術後 2 日目には左上肢挙上, 左膝立可能となった. 術後 1 週より起立歩行訓練を開始し, 術後 2 週で歩行器歩行が自立し, 左手指巧緻運動も改善した. 術後 7 週には自立歩行が可能となった. 術後 2 カ月の MRI では脊髄浮腫が改善し, 髄内輝度変化も消失していた.

7. 神経鞘腫摘出術後に生じた排尿障害の検討

小林 亮一, 飯塚 陽一, 西野昌宏
反町 泰紀, 飯塚 伯, 高岸 憲二
(群馬大院・医・整形外科)

【はじめに】 脊髄腫瘍の中でも神経鞘腫は, 日常頻繁に遭遇する疾患である. 神経鞘腫摘出時の神経根 (馬尾) 切離に伴う術後神経脱落症状として, 運動障害・知覚障害が生じる事が知られている. 日常生活に影響を及ぼすほどの神経脱落症状は少ないとされているが, 時に術後排尿障害を示す症例に遭遇する. 今回われわれは, 神経鞘腫摘出後に排尿障害をきたした症例の特徴ならびに経過について検討したため報告する. 【対象および方法】 平成 10 年から平成 22 年 3 月までに, 当院にて脊髄腫瘍摘出術を施行した症例は 113 例である. そのうち神経鞘腫は 70 例であり, 馬尾高位に生じていたもの 32 例であった. 本シリーズにおいて術後排尿障害を生じた症例の特徴を, retrospective に検討した. 【結果】 術後新たに排尿障害が出現した症例は 4 例であり, 全例馬尾腫瘍であった. 全神経鞘腫中の 5.7%, 全馬尾腫瘍中の 11.1%であった. 男性 1 例, 女性 3 例であり, 平均年齢は 60 歳であった. 全症例とも馬尾腫瘍であり, 術中 4 例に